

# 2021(令和3)年度 活動報告

- 2021(令和3)年度 事業項目別活動報告

- 各課の活動報告

  - 基幹センター地域支援課

  - 基幹センター業務管理課

  - 石巻地域センター地域支援課

  - 気仙沼地域センター地域支援課

- 実践報告

- 他誌掲載論文



# 2021(令和3)年度 事業項目別活動報告

2021(令和3)年度のみやぎ心のケアセンターが第2次運営計画に沿って実施した地域住民支援、支援者支援、普及啓発などの事業実績について、各項目別に報告する。

## 1. 2021年度の実績・全体数(表1)

表1 所属ごとの活動件数

	各地域センター地域支援課			業務 管理課	基幹C 管理職	非常勤 ・委託	サポー ターズ他	合計
	気仙沼	石巻	基幹					
地域住民支援	3,130	556	194	15	7	2	0	3,904
支援者支援	190	266	137	8	6	0	0	607
普及啓発	166	15	16	11	10	0	0	218
各種活動支援	0	0	0	0	0	0	0	0
会議連絡調整	313	367	38	100	13	0	0	831

## 2. 事業項目別

### (1) 地域住民支援(表2)(表3)

表2 支援方法別対応延べ人数(手紙を除く; N=3,853)

支援方法	人数
訪問による相談	657
来所による相談(相談窓口などでの対応を含む)	2,034
電話による相談	1,101
集団活動の中での相談	21
ケース会議(対象者出席の場合)	7
受診同行	16
その他	17
計	3,853

表3 当センター初回支援時の経路(複数選択; N=339)

相談経路	人数
健康調査・全戸訪問	104
行政機関から	46
本人から	90
家族・親族から	41
サポートセンター・仮設支援員から	1
医療・福祉機関から	11
その他(近隣住民、職場、不明、その他)	60

①支援対象者について

a. 性別、年齢および就労状況（図1）

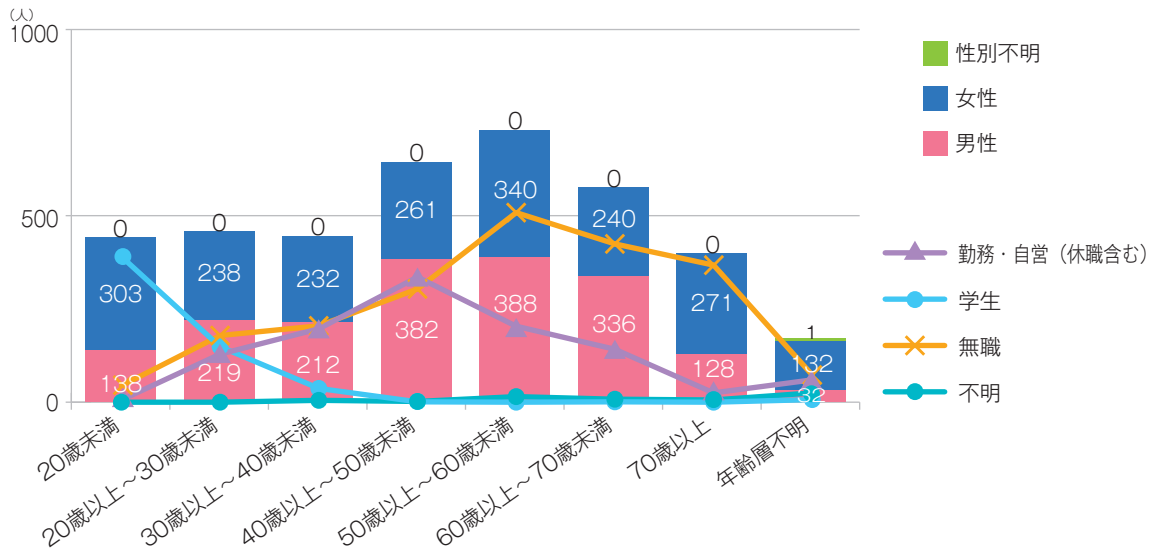


図1 性別・年齢階層別支援対象者数（延べ人数；N=3,853）

b. 被災状況

死別の状況と対象者（図2・3）、負傷状況（図4・5）、住宅被害（図6・7）

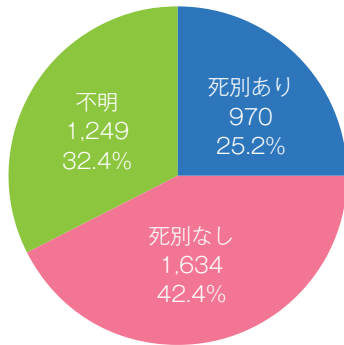


図2 死別の状況（延べ人数；N=3,853）

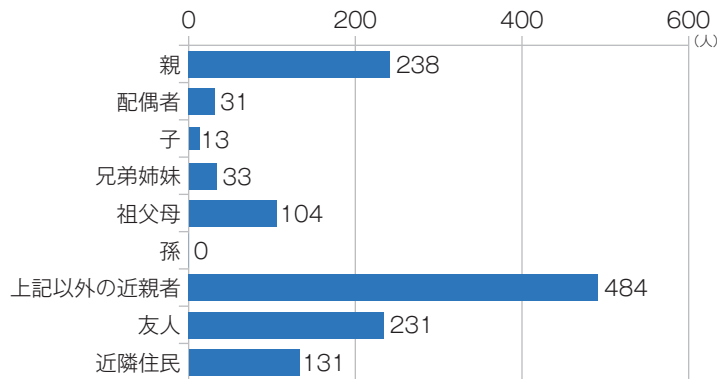


図3 死別の詳細（延べ人数、複数選択；N=970）

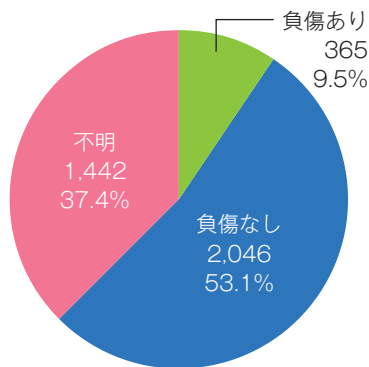


図4 本人または近親者の負傷の有無（延べ人数；N=3,853）

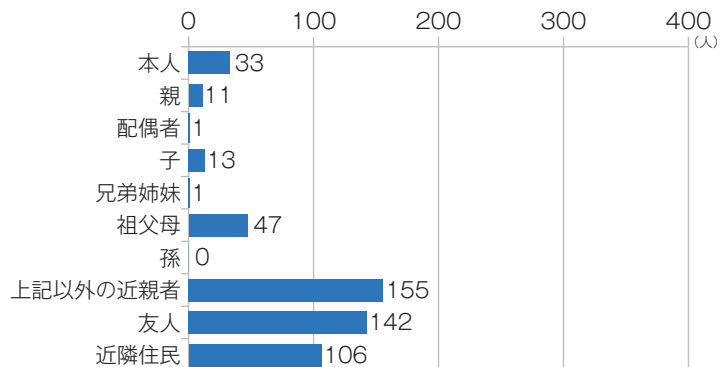


図5 負傷者の詳細（延べ人数、複数選択；N=365）

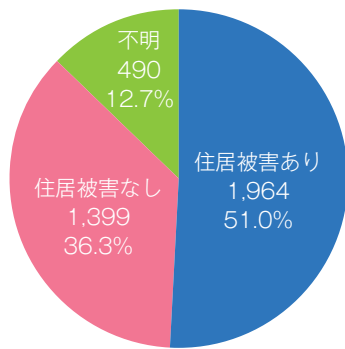


図6 住宅被害の有無  
(延べ人数；N=3,853)

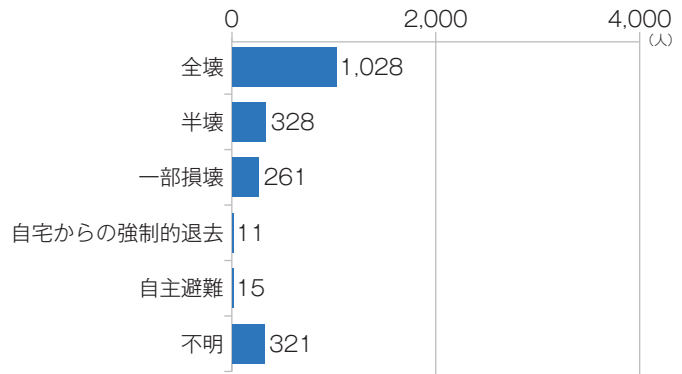


図7 住宅被害の詳細 (延べ人数；N=1,964)

c. 生活状況 (表4・図8・9)

表4 現在の居住環境 (延べ人数；N=3,853)

居住環境	人数
自宅	2,732
プレハブ仮設住宅	34
民間賃貸借上住宅	4
災害公営住宅	956
その他・不明	127

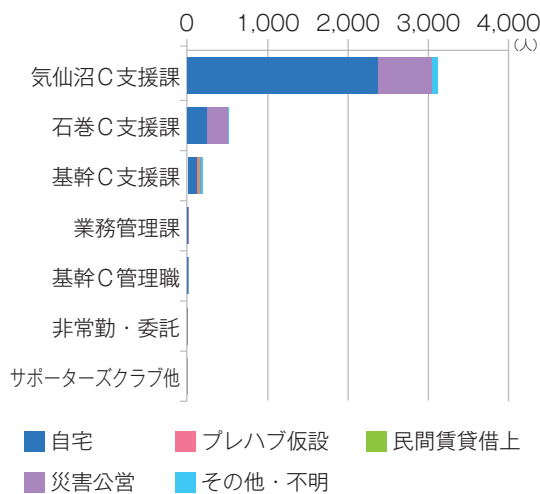


図8 担当課ごと現在の居住状況  
(延べ人数；N=3,853)

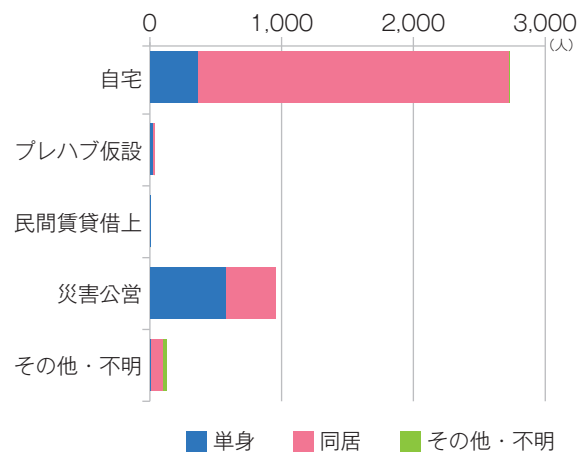


図9 居住環境と世帯の状況  
(延べ人数；N=3,853)

d. 相談の背景 (図10)

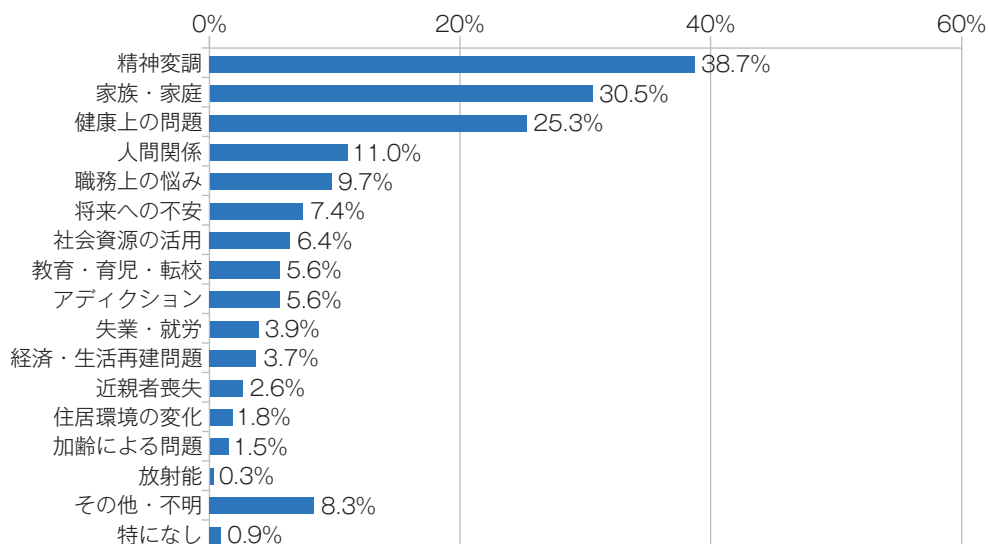


図10 相談の背景の有効回答数に対する割合 (延べ人数、複数回答；N=3,853)

e. 精神変調 (図11)

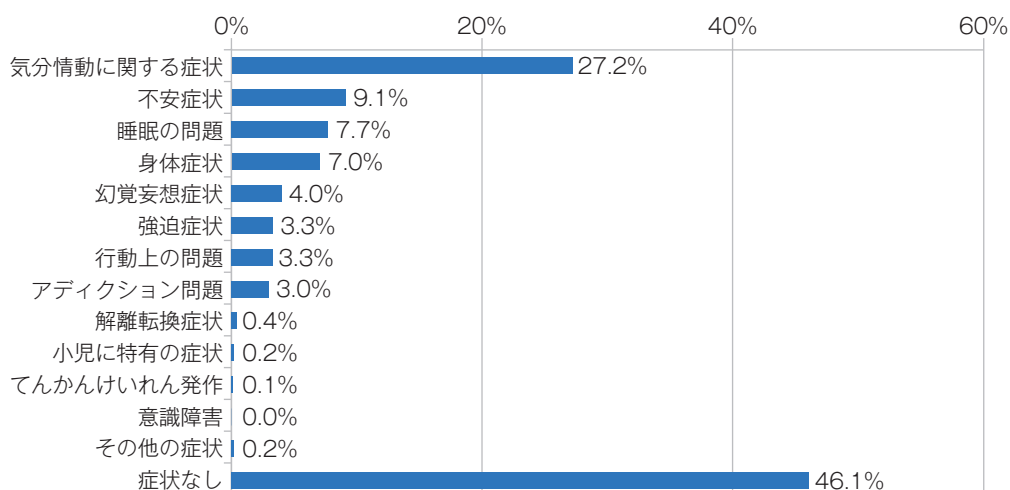


図11 精神変調内訳の有効回答数に対する割合 (延べ人数、複数回答；N=3,853)

f. 精神科受診歴の有無と病名、発症時期、現在の治療歴 (表5・図12)

表5 受診歴と現在の治療状況 (延べ人数；N=3,853)

精神科受診歴	人数
(治療継続中)	1,355
(治療終結)	112
受診歴あり (治療中断)	235
(未治療)	7
(治療状況不明)	29
受診歴なし	1,465
受診歴不明	650

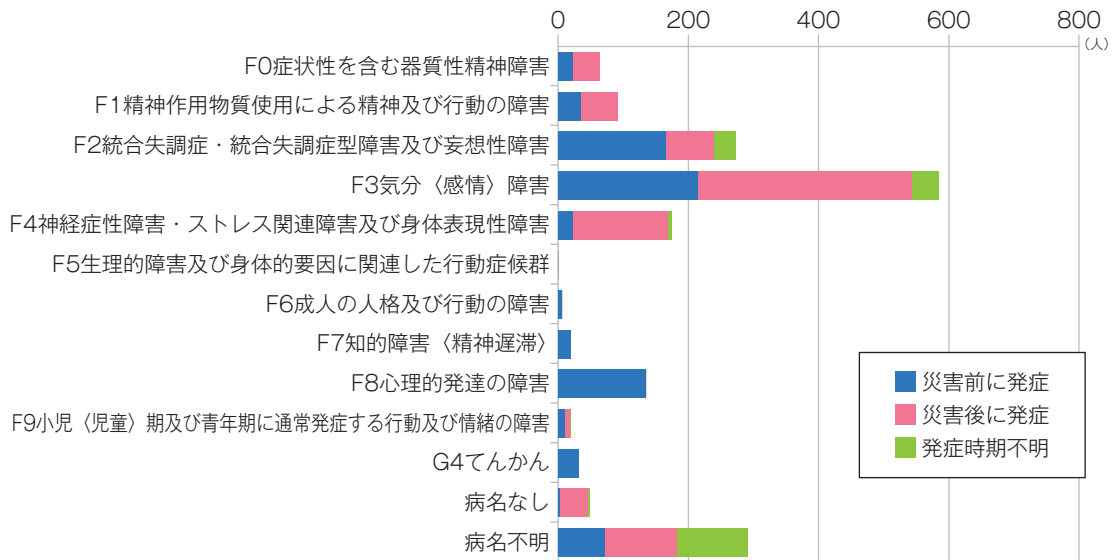


図12 受診歴あり・病名ありの方の疾患分類別人数（延べ人数、複数回答；N=1,738）

②支援内容について

a. 担当課ごと支援方法別件数（図13）

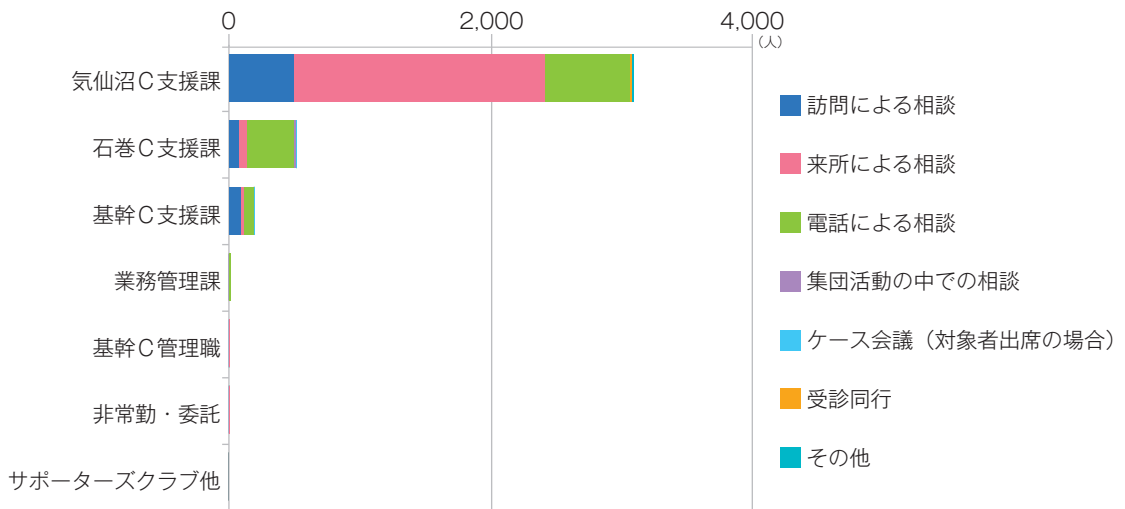


図13 担当課ごと支援方法別人数（延べ人数；N=3,853）

b. 相談者の内訳 (図14)

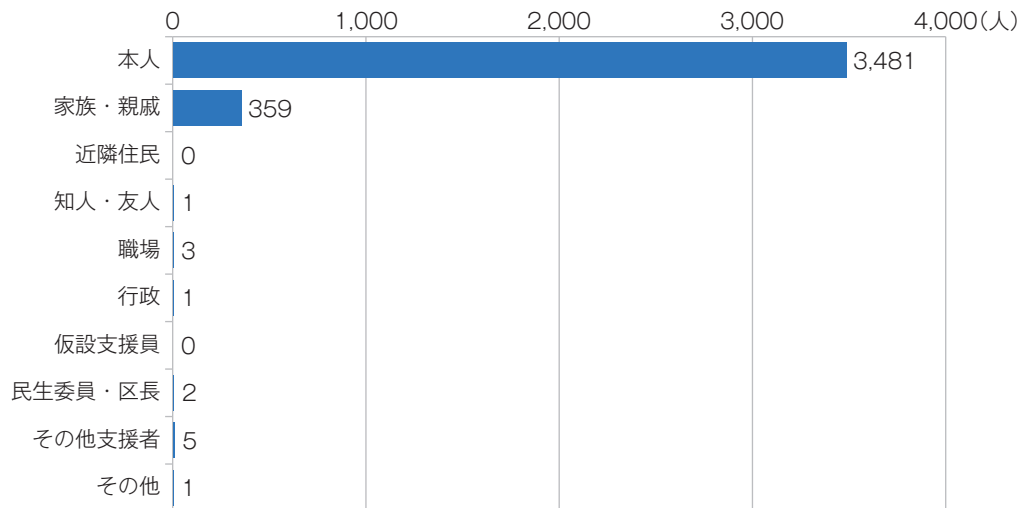


図14 相談者別人数 (N=3,853)

c. 他機関による同席 (図15)

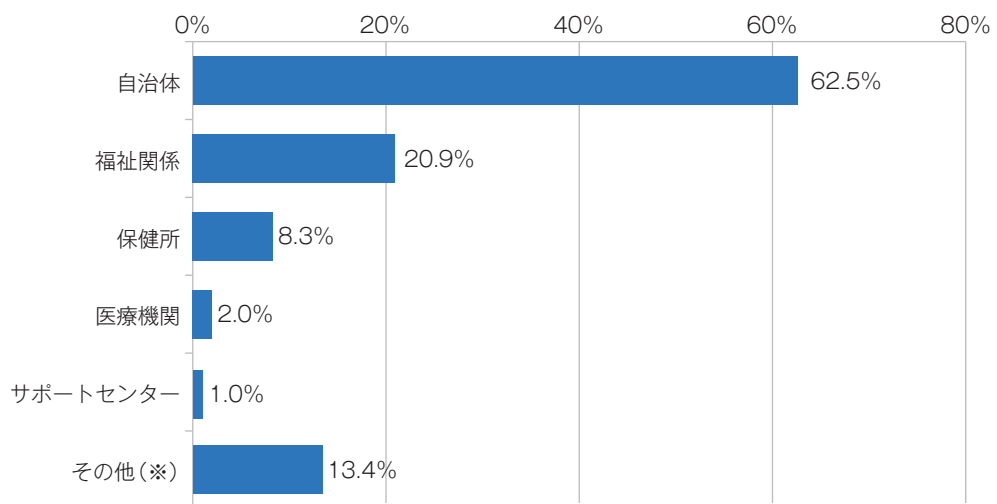


図15 同席他機関の有効回答数に対する割合 (延べ人数、複数選択; N=397)

※「その他」には、教育機関、警察、民生委員などを含む。



d. 担当課ごとの特徴 (図16)

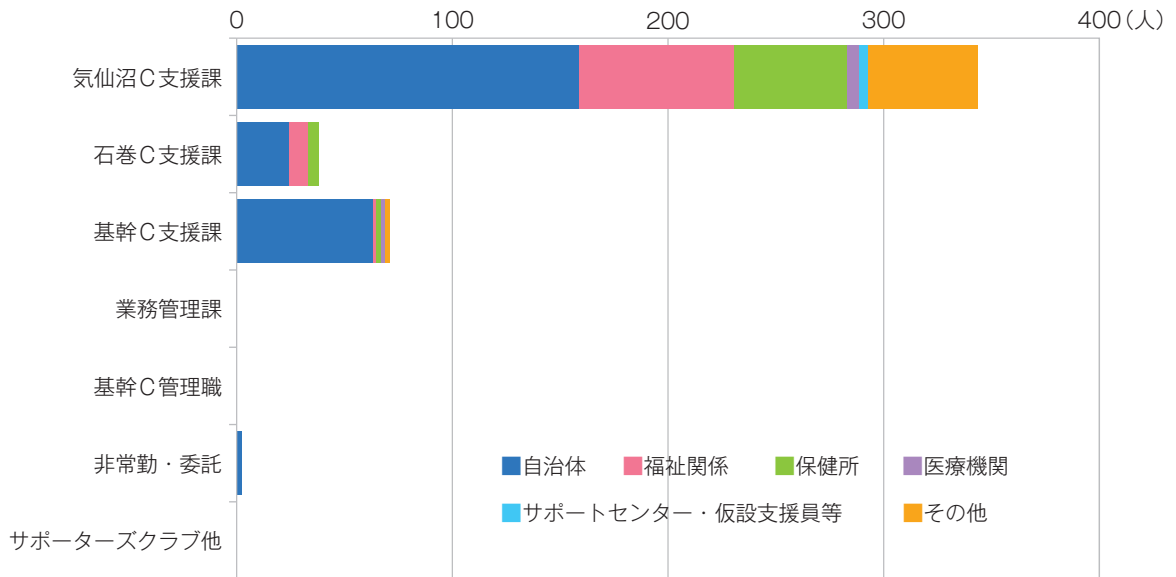


図16 担当課ごと 同席他機関の内訳 (延べ人数、複数選択；N=397)

③支援終結状況について (表6・図17)

表6 転帰 (N=3,853)

対応状況	人数
定期面談	2,606
継続 (延べ)	
必要時面談	829
その他	0
状況改善	373
終了 (実数)	
他機関紹介	39
支援拒否	5
その他	1

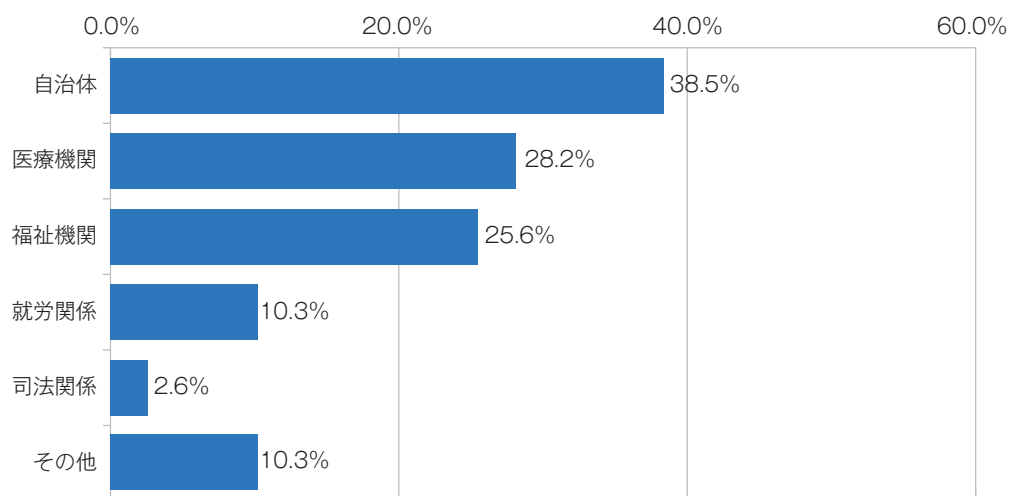


図17 他機関紹介内訳の有効回答数に対する割合 (延べ人数、複数選択；N=39)

(2) 支援者支援

①支援実施状況

a. 支援件数 (表7)

表7 支援者支援実施状況 (延べ件数; N=607)

支援内容	件数	対象者数
訪問・面談後の報告	100	113
専門的立場からの指導・助言	188	493
地域の課題	40	298
職場のメンタルケア	6	72
ケース会議(対象者欠席の場合)	108	728
心の相談窓口の開設	22	22
健診支援	60	426
事務作業の支援	22	26
その他 (PFA研修※1、セルフケア研修※2、事業運営協力など)	61	603
計	607	2,781

※1 ※2 2020年度までは人材育成事業として計上した。

b. 専門的立場からの指導・助言の内容 (表8)

表8 専門的立場からの指導・助言 (N=188) の詳細  
(延べ件数、複数選択有)

専門的立場からの指導・助言詳細	件数
アルコール問題	21
ギャンブル問題	0
薬物問題	0
うつ	13
複雑性悲嘆	0
PTSD	3
虐待	20
その他	160
計	217

表8の「その他 160件」の内訳と割合を図18に示す。

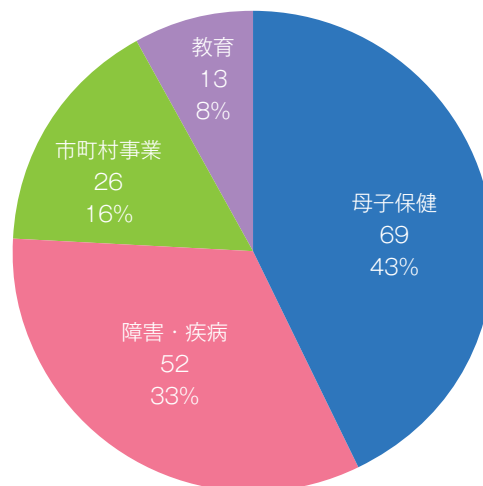


図18 専門的立場からの指導・助言「その他」 (N=160)

c. 支援対象者（図19）

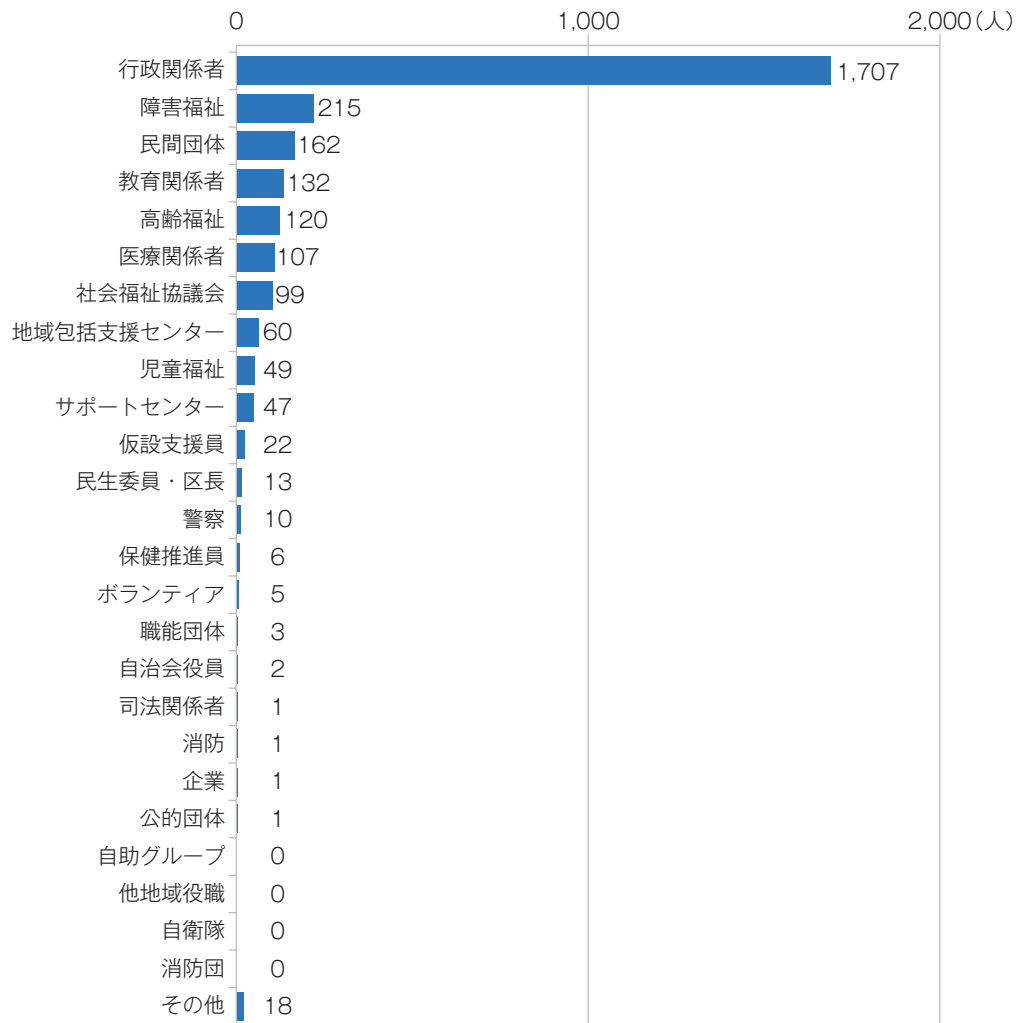


図19 支援対象者詳細（延べ人数；N=2,781）

②担当課ごと支援者支援の実施内訳（図20）

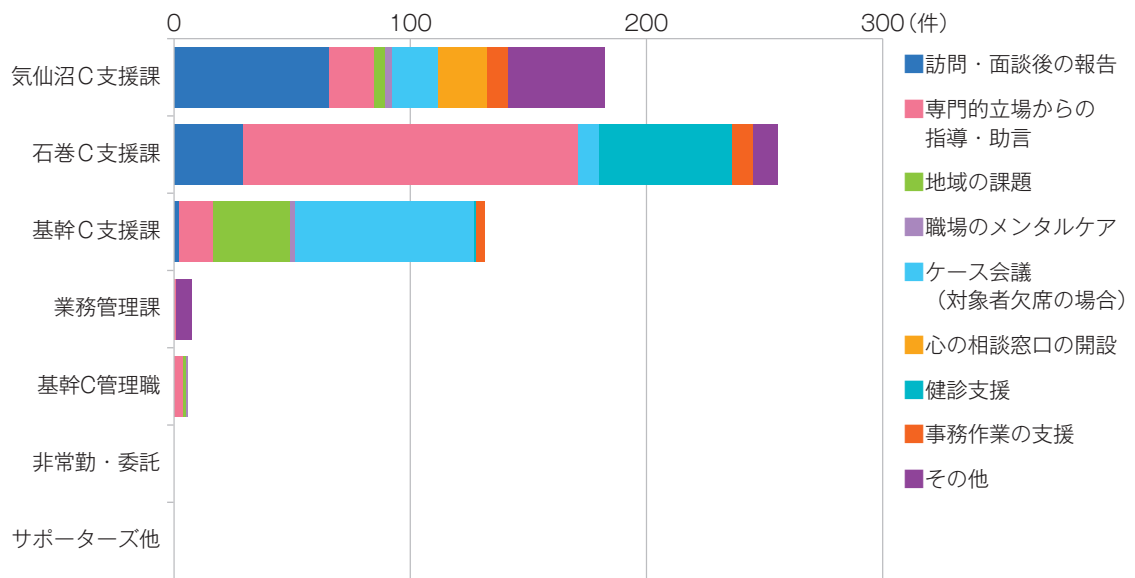


図20 担当課ごと支援者支援実施状況（延べ件数、複数選択；N=607）

③担当課ごと専門的立場からの助言指導の内訳（図21）

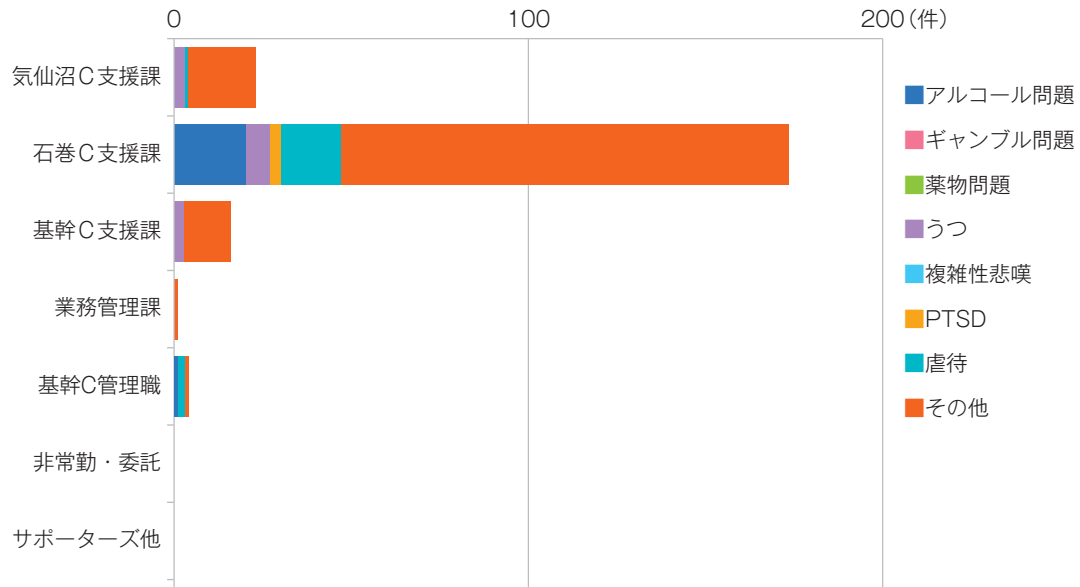


図21 担当課ごと専門的立場からの指導助言の詳細 (延べ件数、複数選択; N=188)

(3) 普及啓発

①普及啓発物の発行 (表9)

表9 啓発グッズなど配布状況

配布地域	タイトル・内容	新規・増刷	作成部数
県内全域	オレンジリボン (子ども虐待防止) ボールペン	新規	150本
	オレンジリボン (子ども虐待防止) 蛍光ペン	新規	150本
	オレンジリボン (子ども虐待防止) エコバッグ	新規	150個

②普及啓発研修 (表10)

表10 普及啓発研修 (N=18)

	回数	参加者数
震災後の心の反応	1	15
精神疾患について	1	16
話を聞く場合の基本的技術 (傾聴、遺族対応など)	6	166
アディクション問題 (アルコール問題など) について	2	274
震災が子供にもたらす影響	0	0
ストレスと心のケア・セルフケアについて	6	154
体の健康について	0	0
職場のメンタルヘルスについて	1	8
被災地の状況と当センター活動について	1	100

### ③調査研究・学会発表など（表11）

表11 調査研究

実施日	活動月	担当者	調査研究名	詳細
2021年	7月	久保田美代子	東日本大震災から10年を振り返る～健康調査結果から見える課題～	第31回東北作業療法学会（オンライン上で開催、学会運営拠点は岩手県盛岡市、会期は2021年7月1日～31日）東日本大震災シンポジウムにリモートで登壇した。
2021年	7月	渡部 裕一	コロナ禍のサロン活動の再開を通じて、人々の集う場とつながりを再考する	第20回日本トラウマティック・ストレス学会（オンライン上で開催、学会運営拠点は福島県郡山市、会期は2021年7月17日・18日）シンポジウム「災害復興支援にコロナ禍はどのような影響を与えたのか」にリモートで登壇した。
2021年	7月	片柳 光昭	被災地での継続支援の経験から	第20回日本トラウマティック・ストレス学会（オンライン上で開催、学会運営拠点は福島県郡山市、会期は2021年7月17日・18日）シンポジウム「東日本大震災と地域・コミュニティの回復：次世代に何を伝えるべきか」にリモートで登壇した。
2021年	7月	福地 成	東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究（1）：養育者の精神健康は震災後に出生した子どもにどのような影響を与えるのか	第20回日本トラウマティック・ストレス学会（オンライン上で開催、学会運営拠点は福島県郡山市、会期は2021年7月17日・18日）におけるポスターセッションにおいて発表を行った。（ポスターセッションの配信は7月17日～7月30日）
2021年	7月	千葉 柊作	東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究（2）：保護者の精神健康及び子どもの問題行動の個人差の検討ー潜在成長曲線モデルを用いてー	第20回日本トラウマティック・ストレス学会（オンライン上で開催、学会運営拠点は福島県郡山市、会期は2021年7月17日・18日）におけるポスターセッションにおいて発表を行った。（ポスターセッションの配信は7月17日～7月30日）
2021年	10月	岡崎 茂	東日本大震災から10年 東北は今	全国＜東北＞断酒の集い2021（オンライン上で開催、学会運営拠点は東京都、会期は2021年10月10日）において発表を行った。
2021年	10月	丹野 孝雄	令和2年度年間活動報告書（紀要通巻第9号）の作成	令和2年度年間活動報告書（紀要通巻第9号）を作成し、920カ所に配布した。
2021年	11月	渡部 裕一	私たちの「復興を考える」～東日本大震災から10年～	あみ全国精神障害者地域生活支援協議会「ami第24回全国大会@online」（オンライン上で開催、学会運営拠点は東京都、会期は2021年11月26日・27日）におけるパネルディスカッション「『事業所と支援の10年』～『復興』って何だろう～」にリモートで登壇した。
2021年	12月	尾崎 朱美	被災地における節酒支援～サロンの取り組みと節酒支援の展開～	2021年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会（第56回日本アルコール・アディクション医学会・第43回日本アルコール関連問題学会による合同学術総会、開催は三重県総合文化センターをハイブリット会場として使用、運営事務局は愛知県名古屋市、会期は2021年12月17日～19日）オンラインセッションにおいて口演発表を行った。

※調査研究などについては2020年度に取り組んだものを2021年度に発表したもの。

### ④サロン活動（表12）

表12 サロン活動（N=21）

	各センター地域支援課			その他	合計
	気仙沼	石巻	基幹		
主催・共催サロン	6	0	5	0	11
他機関サロンへの協力	4	0	6	0	10